



## 「脚下照顧」

### 『100キロウォークとイジメと何で教』の関係



今年も七福醸造さん主催のあの100キロウォークが無事終了しました。今年は昨年より200人ほど多い1600人の参加となりました。この分では来年は多分1000人を越えるのではないかと思います。

テクアからも6人の勇者達が100キロの地獄に挑戦しました。多分この勇者達は100キロを歩く当日まで何度も『何で100キロなのよ～？』『何考えるの？』『ばっかじゃな～い！！』という声に耐えてきたことと思います。

これはトイレ掃除をやりて小学校や中学校に出向いたときにもよく聞く声で、子供の付き添いで仕方なしについてきた親が『何でトイレ掃除なのよ～』『何でこんな真冬なわけ～』『何でわざわざ裸足になるのよ！！』と最後の最後まで『何で』という問いを執拗に繰り返すのと似ています。

しかしこの日本人の大多数が参加している『何で教』はいつ発生したのでしょうか？私は終戦直後にその萌芽があったと見ています。多くの日本人が国のために命を懸けて戦い、その為にかげがえのない命を落としました。命を落とさなくとも戦地から命からがら逃げ帰ってきた、地獄を見てきた人々もたくさんいました。そんな人たちが皆一様に家族に『これからは自分の幸せだけを考えればいい！そんな良い時代が来るんだ！！』と伝えたことと思います。もっともなことだと思います。当時はそれでよかった、そうした方がよかったと本当に思います。しかしながら60年経った現在もそれで良いのかというと『ちょっと待った！！』です。

国に対する忠誠心を捨て、神社仏閣への信仰心を捨て、自然の美しさを愛でる心を捨て、人と人とのやさしい心の交流を捨て、それと引き換えに個人の幸せをなりふり構わず追求する、そしてそれがあたりまえの権利だと主張する、自分に損な事は一切しようとしない、そんな日本人が大量に出来上がってしまったのではないのでしょうか？

自分の利益のみを追求すればするほど心が乾く、そんな心情を日本人なら誰でも経験していることと思います。でもその『乾いた心』に焦点を当てず、あいも変わらず一時の快楽と個人的利益のみを追求する教団、これが『何で教』の正体ではないかと思えます。『何で』とは『何で自分に一銭の得にもならないようなことをわざわざやるの？非効率だしばかばかしい』の略ではないかと思えます。

いま話題になっている『いじめ問題』も子供と教師と学校と教育委員会と一緒にがんばったら解決できる問題ではなく、日本人の『乾いた心』から湧き出る『怒り』や『イラつき』が社会や家庭に蔓延し、より立場の弱いものに伝染していった結果ではないかと思えます。我々の業界でも先輩にひどい扱いを受けて育った職人さんは後輩に知らず知らずのうちに冷たく当たると言われています。どんな世界、業界でも『負の連鎖』を断ち切る勇者が求められていると思えます。

足首がぐらぐらになって歩けなくなり、ガードレールにつかまりながら何とかかんとかたどり着いた69キロ地点。しかしこの先ガードレールがなくなり、なすすべなくその場に硬直していたところをレスキュー隊に救助された安藤君。雨でグチョグチョになった重い靴を引きずりながら意識も朦朧と、なんとかかんとか70キロ地点までたどり着いた利君。2人とも体は凍えるように冷え切っていたと思えますが、心の中は応援に駆けつけた仲間の拍手に感動し、献身的なマッサージに感謝し、自分ひとりの無力さに謙虚さを覚え、限界の中で普段対面できない自分に出会えたことだろうと思えます。

100キロを歩くという行為は単純に衣浦から渥美半島の先端までたどり着くということではなく、戦後60年間で日本人が失くして行ったものを心の中で取り戻していく道程ではないかと思えます。

さて、めでたく完歩した勇者、馬崎さん、カラさん、しばっちゃん、棚橋さん、おめでとうございます！この歩きで得た熱い心を、職場で『負の連鎖』を断ち切る力に変えてください。そしてなるべくたくさんの『何で教』の信者を救出してください。『乾いた心に100キロウォーク！！』を合言葉に！

来年はついにテクアの影の首領と呼ばれている大橋さんが参加します。もうすでにラグビーボールを抱えて早朝から東公園を走り回っているというわけです。『何でラグビーボールなの？』と質問してはいけません。私にもわからない人ですから(笑)。でも大橋さんと一緒に仕事をしたことがある人は『何でこんなに損得なくせせと動けるの？』という感想をみな持っていると思えます。

『元気とは、何で？と聞かれるわけのわからないところからあふれてくる』という真理に日本人はもうそろそろ気づく必要があると思えます。

感謝 羽原篤史

